

コロナ禍の収束がみえない不安感に疲弊する中で、ロシアの「ウクライナ侵攻」という戦争がはじまり、地震などの大災害にも備えなければなりません。私たちは急変・不確定・複雑さが容赦なく進む

## ナビゲーター

世界に生きています。そして将来予測が困難であればあるほど、働き方・生き方などの選択を迫られた時に、自分自身の「変わらないもの、大切にしているもの」を知りたいという気持ちも強くなってき

# 理論と実践 産業カウンセリング 私の実践

◆ 7

ます。  
組織心理学の祖、E・シャイン博士は、さまざまな経験により個人の中に形成される価値観や願望などのうち、変わらないものを示しています。選択に迫られた時の拠り所である「得意・価値・動機・生活スタイル」などを船の錨（アンカー）を下した場所に例えて「キャリア・アンカー」と名付けています。現在は、専門・職能、経営管理、

## キャリア・アンカーの活用

自律・独立、保障・安定、起業・創造、奉仕・社会貢献、純粋な挑戦、生活様式という八つのアンカーが提示されています。

キャリア・アンカーを探る方法としては、「質問紙」によるものと、教育・職業歴への質問「インタビュアー」によるものがあり、質問紙よりもインタビュアーの方がより精度は高いと言われています。

私自身のコンサルティング経験でも、インタビュアーの途中で急に立ち上がり「いかに自分で自分のことを決めていないか、何が大切かわかりました！もう大丈夫です」と叫んだ方がありました。そして、その後の活動は依存的なものから主体的なものに変えました。企業内研修でキャリア・アンカーを活用すると、企業・部署によってアンカーに特徴的な偏りが見られ、組織の風土・文化との関係を知ることができ

ます。  
一方で、同じ仕事を長く続けている人には、キャリア・アンカーが形成されにくいというデータもあります。要するに、キャリア・アンカーは、個人がもともと持っているものではなく、多様な文化・環境と出会い経験を重ねることにより創られるものになります。

# 変わらない大切なもの創り続ける

激変・不透明な世界では、仕事も生活環境も変化し続けます。このような時代に、変わらない生き方・働き方・大切にしたいことを自身の

【東海ライフキャリア代表  
1級キャリアコンサルタント  
藤田廣志】  
(火曜日掲載)

